

■ 記録映画アーカイブ・プロジェクト 第5回ワークショップのご案内

「日本の民主化と社会科教育」—発見された常総市コレクション

記録映画のアーカイブを活用して、映像を用いた多様な研究・教育の可能性を再発見する連続ワークショップ。その第5回は、茨城県常総市で新たに見つかった教材映画を特集します。なかでも「社会科教材映画大系」は戦後に新しく創設された社会科を小学生向けにわかりやすく解説したユニークなシリーズです。その第1作「はえのいない町」は水海道小学校を舞台に撮影されたことでも知られています。

今回のワークショップでは、戦後の日本を民主化する柱となった社会科とその教材映画が果たした役割や背景について多角的に議論します。

主催 東京大学大学院情報学環記録映画アーカイブ・プロジェクト
協力 記録映画保存センター

日時：2011年3月6日（日） 14:00-18:00（開場は13:30）

場所：東京大学本郷キャンパス 情報学環・福武ホール（B2F）（赤門横）

13:30- 開場

14:00- 開会 総合司会：丹羽美之（東京大学）

14:10- 映画上映・『社会科教材映画大系』

『はえのいない町』1950年、12分（脚本：羽仁進 監督：村治夫 撮影：吉野馨治）

『伝染病とのたたかい』1950年、12分（監督：松岡 佑 撮影：広川朝次郎）

『町と下水』1952年、21分（脚本/演出：羽仁 進 撮影：藤瀬季彦）

・『CIE映画 NO 191』

『わが街の出来事』1950年、14分（監督：岩下正美 撮影：岡崎宏三 製作：シュウタグチ・プロ）

15:10- 休憩

15:30- 制作者が語る

藤瀬季彦（カメラマン・元岩波映画製作所社長）

16:00- パネリスト報告

中村秀之（立教大学）

Prof. G. P flugfelder（コロンビア大学歴史学教授）

17:00- 全体討論

中村秀之、G. P flugfelder、藤瀬季彦、吉見俊哉（コーディネーター）

18:00- 終了

入場無料・事前登録制 お申し込み先は下記に

記録映画アーカイブプロジェクト <http://www.kirokueiga-archive.com/event/index.html>

第5回WS上映作品解説

2011. 3.6

『わが街の出来事』 1950年・14分 (CIE映画)
(シュウタグチ・プロダクション、監督：岩下正美、撮影：岡崎宏三)

『はえのいない町』 1950年・12分 企画 日本学校映画教育連盟
(岩波映画製作所、脚本：羽仁進、監督：村治夫、撮影：吉野馨治、撮影助手：藤瀬季彦)

『伝染病とのたたかい』 1950年・12分 企画 日本学校映画教育連盟
(都映画社、監督：松岡佑、撮影：広川朝次郎)

『町と下水』 1953年・21分 企画 日本学校映画教育連盟
(岩波映画製作所、脚本・演出：羽仁進、撮影：藤瀬季彦)

上映作品の時代背景

今回、常総市から見つかった教材映画には、日本の視聴覚教育初期の教材が多く含まれている。その一つに、戦後民主教育の柱として新設された社会科教材映画大系作品が32作品あった。

「CIE映画」

第二次世界大戦後、日本人に向けて映画を利用した占領政策が連合国軍最高司令官総司令部 (GHQ/SCAP) の民間情報教育局 (CIE) によって行われた。1950年12月までに500本前後に達したこれらの映画は、CIE映画 (または映写機のメーカー名にちなんで「ナトコ映画」) と呼ばれ、全国の映画館、公民館、学校で上映され、講和条約締結までに延べ9億人が見たといわれる。その後、教室内で利用できる日本オリジナルの教材映画が求められ、社会科教材映画体系に発展していく。

「社会科教材映画大系」

「社会科教材映画大系」は、日本映画教育協会の企画に沿って日本学校映画教育連盟が担当し、監修は東京大学教授の海後宗臣、東京教育大学教授の梅根悟、文部省事務官の長坂端午 (社会科担当)、阪本越郎 (視聴覚教育担当)、上田薫、映画教育研究家の関野嘉雄、中央教育研究所の矢口新、国立教育研究所の小川一郎、東京都教育庁指導主事の矢谷芳雄である。小学生向けに社会を7部門に分け、137本が計画されたが、出来たのは39本であった。製作は教材映画製作協同組合 (東宝教育映画、東映製作所 (春秋映画)、中谷研究室 (岩波)、三木映画、教材映画研究所、日本映画、内外映画、都映画、理研映画、科学映画社の10社) が担当。販売不振もあり29年に製作を中止した。

フィルムライブラリーについて

日本の視聴覚教育は昭和24年頃から野外や映画館での映画教室から行なわれていたが、学校の教室内や地域や職場で社会教育に利用できるフィルムライブラリーの設置が望まれ、文部省も昭和28年4月に通達を出して推進した。水海道市教育研究会フィルムライブラリーは同年9月と、早い時期の設置である。最盛期には全国で約1000箇所あったが、現在メディアがフィルムからDVDなどになり、名称も多くは視聴覚センターとなっている。